

## 2. 認知症かなと思ったら

認知症は、めずらしい病気ではなく、誰にでも起こり得る病気です。

すでに65歳以上の人の10人に1人、85歳以上の人では4人に1人が認知症といわれています。家族の誰かが認知症になっても不思議ではないのです。

認知症は様々な原因から発症しますので、「何かおかしいな？」と思ったら、まずはかかりつけ医などへ相談し、専門家のアドバイスを受け、適切な医療機関への受診を行うことが大切です。

認知症は早期診断・早期治療が大切です。



### 早期の診断や治療が大切なわけ

家族に気になる症状があったとき「年齢のせいだ」「まさか自分の家族が認知症になるなんて」などと考えて、病院に行くことをためらうのは誤った判断です。

早く診断し、適切な治療や内服を早い段階から行うことで、症状が改善したり、進行を遅らせる可能性が高まります。

早期診断、早期治療は認知症の人の生活を左右する非常に重要なことです。

### 治る病気や一時的な症状の場合があります

正常圧水頭症や脳腫瘍、慢性硬膜下血種などの場合、手術などの脳外科的な処置で劇的に良くなる場合もあります。

甲状腺ホルモン異常の場合は、内服などの内科的な処置で良くなります。

副作用など、薬の使用が原因で認知症のような症状が出た場合は、主治医と相談のうえで薬を調整することで改善されます。

治る可能性のある病気の場合でも、長い期間そのまま放っておいた場合には、脳の細胞が死んだり、恒久的な機能不全になってしまい回復できなくなります。

## 早い時期に受診することのメリット

アルツハイマー型認知症など、治療をしても完治することが難しい病気の場合でも、薬で進行を遅らせることができます。治療によって「表情が穏やかになった」「電話や買い物ができるようになった」「忘れて聞き返す回数が減った」などの効果が見られることもあるため、早く治療を始めることが有効となります。

また、本人が病気を理解できるうちに受診をし、病気と向き合い話しあうことで、今後の生活の備えをすることができます。

### ご家族の皆さんへ

認知症と診断をされても、「あわてて騒がないこと」が第一です。医療機関へ受診・相談をする際には、家族の冷静な情報がとても大切です。日常から、「いつ」・「どこで」・「何が起こったのか」などを記録しておくことで相談するときに便利です。

本人と家族が穏やかで心地よい生活をおくることを目標に、冷静な対応を心がけましょう。

